

書 評

門村 浩・武内和彦・大森博雄・田村俊和：
環境変動と地球砂漠化

朝倉書店，1991，276頁，4,944円

本書は、最終章を除けば、日本地理学会機関誌「地理学評論」の「砂漠化」の地理学特集号』（61A-2）所収の3論文を中心として、都立大・東大グループによる、文部省科研費アフリカ・オーストラリア海外学術研究の既発表論文をまとめたものであり、以下の4編14章からなっている。

I グローバル・チェンジの視点からみた砂漠化現象

1. 地球砂漠化の現状
2. 地理学とその周辺分野における砂漠化研究の流れ

II 熱帯アフリカにおける環境変動と砂漠化

3. 過去2万年間の環境変動
4. サハラ南縁部における歴史時代の干ばつと砂漠化
5. サハラ南縁部における最近の干ばつと砂漠化
6. カメルーン中・西部の高地におけるサバンナ化の歴史
7. カメルーン南部高原森林地帯のアグロフォレストリー
8. ザンビアのチテメネ・システムとアグロフォレストリー

III オーストラリアにおける環境変動と砂漠化

9. オーストラリアにおける砂丘の再活動と環境変遷史
10. マレー・マリー地域の植生変化と砂漠化現象
11. 降水量変動と砂丘の再活動
12. オーストラリアにおける砂漠化防止対策

IV 砂漠化研究の展望

13. 砂漠化の認定とモニタリング
14. わが国の砂漠化防止への取り組みの現状と課題

Iでは、砂漠化の定義と経過、世界における最近の砂漠化の傾向、サハラ南縁地帯の砂漠化問題の研究史が述べられている。

IIでは、過去2万年間のサハラ地域の環境変動史、過去1000年間の干ばつと砂漠化について述べ、砂漠化問題の歴史的背景を明らかにするとともに、門村氏によるセネガルとニジェールでの調査例が示されている。続いて、カメルーンにおける環境変動（サバンナ化）について、門村隊の現地調査の成果を中心に述べられており、ザンビアの現地調査報告も紹介されている。

IIIでは、オーストラリアにおける砂丘の再活動について、鈴木・戸谷隊による現地調査の成果がまとめられている。砂丘の形成とその再活動にかかわる気候条件の変動についての考察、南部半乾燥地域における植生の退行、土地の劣悪化についての植生学からの考察が述べられ、砂丘の再活動

と降水量変動との関係が明らかにされている。最後に、オーストラリアにおける砂漠化の現状とその対策がまとめられている。

IVでは、砂漠化の認定とモニタリングにまつわる課題を展望し、わが国における砂漠化研究の現状を要約し、今後の話題を整理し、本書全体の総括がなされている。

これらのなかで、特に読みごたえのあるのは、門村氏による文献レビュー、大森・武内氏によるオーストラリア調査報告、田村氏によるカメルーン調査報告である。

本書は砂漠化全体を網羅した教科書ではなく、南米の研究例がないのは少し淋しい気がするが、日本語による砂漠化についての良書はこれまでに少なく、これから研究しようとする者にとって、よき指針となるであろう。

（岩崎一孝，北海道大学文学部）